

三浦市立三崎中学校

研究テーマ：自ら学ぶ生徒を育む

1 実践の目的

全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、主体的に生徒に学習に取り組ませることが課題として浮かび上がった。

そこで、校内研究を核にした「生徒が主役の学校づくり」を目指し、幅広く興味関心を持ち、自分が気になったことや疑問に思ったことに対して自ら学び進んでいく生徒を育てるため、本研究テーマを設定した。

2 実践の内容

教員を授業研究グループ、総合的な学習の時間グループ、家庭学習グループにわけ、それぞれの視点から自ら学ぶ生徒の育成に取り組んだ。

(1) 授業研究グループ

①単元デザインシート

本校では単元デザインシートと呼ばれる単元ごとの学習計画を生徒に示している。授業の流れや評価規準、単元の最後に問われる振り返りの内容などを生徒にわかりやすくまとめている。単元の学びを生徒と共有するためのシートである。

②「提案授業」と「カンファレンス」

本校ではいわゆる研究授業を「提案授業」と呼んでいる。これは授業者から参観者への提案という側面を大切にしているためである。

提案授業は年3回、6時間目に3人が行い、年間9人が取り組んだ。また、その日の5時間目は3人が授業の録画を行い、提案授業のない教員も、自身の授業を映像で振り返

る機会を設けたため、全教員が年間で1回どちらかに取り組むこととなった。

事後研究として授業に対する生徒の意見を聞く「生徒カンファレンス」を実施。“授業の主役は生徒である”という認識を前面に出すため本校では「カンファレンス」と呼んでいる。

授業研究グループでは、各教員の作成した単元デザインシートのとりまとめ、提案授業のスケジュール設定やカンファレンスの持ち方の提案を行った。

(2) 総合的な学習の時間グループ

①育成を目指す3つの資質・能力の明確化

総合的な学習の時間グループでは、まず3年間を通して育成を目指す資質・能力を明確にすることにとりかかった。

グループ内で協議を重ねる中で、学習指導要領と本校の教育目標及び校訓を照らし合わせ、次の3つに整理した。

- 1.『夢』問いを見つける力
- 2.『自立』問いと向き合い解決する力
- 3.『共生』学んだことを社会に生かそうとする力

その上で、この3つの資質・能力を軸とした探究課題の設定や行事の検討、教科横断的な学び等、カリキュラム・マネジメントに着手した。

②探究課題の設定

3つの資質・能力の育成のためには、生徒が自ら問いを見つけることが欠かせない。そこで実社会や実生活の中から問いを見出すことが実感を伴う学びになると考え、郷

土みうらに目を向けた。三浦市は、消滅可能性都市に指定されており、人口減少・流出への施策や地域の活性化が課題となっている。この課題について生徒が3年間を通して考えることで、3つの資質・能力の育成を図れるよう、探究課題「CHANGE ～あなたはみうらをどう変える?～」を設定した。

(3) 家庭学習グループ

①自学ノートの取組みの充実

本校では自学ノートというノートを年度のはじめに全生徒に配布している。これは、授業の復習や予習、テスト勉強、関心のある事柄について調べるなど、使い方は様々である。毎朝、各学級で提出し、学級担任が内容を確認している。

定期テストの際に、生徒会活動の一貫として「いいとも days」を実施した。これは、本校における家庭学習時間の短さに課題意識を持った生徒会で考案した企画である。

「明日、自学ノート出してくれるかな?」

「いいともー!」というかけ声のもと、全校で自学ノートの提出率を数日間に渡って競い合い、家庭学習時間の充実を目指すものである。

②家庭学習計画表・家庭学習ミッション

家庭学習を行おうにも、「何をどのくらいやってよいかわからない」という生徒も多い。そのため、以前から定期テスト前のみ2週間学習計画を自分で立て、振り返る取り組みを行っている。今年度は夏季休業中に通常の夏休みの宿題に加えて、『夏休み中にここも復習できるといいね!』という学習ポイントを示した【家庭学習ミッション】という自由課題を取り入れた。

家庭学習グループでは、生徒の家庭学習の取り組みが充実したものになるよう働きかけを行った。

(1) 授業研究グループ

全員参加型で授業者の単元計画や当日の流れについて話し合うことができ、それぞれが自分の授業を振り返るきっかけになった。

今年度は、生徒カンファレンスを代表生徒だけでなく、提案授業実施クラスの全生徒と行うようにした。代表生徒だけの時よりも、普段、自身の考えを伝えられない生徒の声を丁寧に聞くことができた。その時に「放課後に勉強の分からない所を教えてほしい」という声に応える形で、定期的に希望者に対して放課後の補習を行うようになった。

(2) 総合的な学習の時間グループ

総合的な学習の時間で育成を目指す資質・能力及び3年間の学習内容を整理することができた。今後は担当教員だけでなく、総合的な学習の時間を受け持つ担任全員で共通認識を持ち、より探究的な学習ができるようにしていく必要がある。

(3) 家庭学習グループ

家庭学習を校内研究に加えたことによって、自学ノートをはじめ家庭学習を習慣づける方法について教員が考え直すきっかけになった。

生徒の学習計画表などから、家庭での学習時間にかなり差があることがわかった。一部の生徒だけでなく、学校全体で家庭学習を行えるようにしていくことが今後の課題である。

4 今後の展開

授業研究については継続して行っていく。

『総合』と『家庭学習』を学校研究に位置付けたことで、本校の課題とされていたことについて、解決に向けて推進がなされた。これら2点についても、さらに充実したものになるよう手立てを探っていきたい。

3 実践の成果と課題